

私、平成 17 年卒で、現在日本中央競馬会（JRA）に勤めております黒田と申します。この度は、私が事務局をしております東京農工大学馬術部後援会の取り組みについてご紹介させていただきます。

東京農工大学馬術部の歴史は古く、1905 年から 6 年ごろの東京帝国大学農学部実科における乗馬会を起源とし、1922～23 年には実科乗馬会として学内組織として活動を開始したとの記録があります。馬術部の歴史は、我が国の獣医学教育の歴史とともにあり、弟の真之とともに”坂の上の雲”（司馬遼太郎著）の主人公である秋山好古が明治 20(1887)年にフランスに留学し、我が国への西洋馬術の導入に尽力したことを源としています。

1935 年に、農学部実科が独立し東京高等農林学校となり、府中新校舎への移転に伴い、府中に馬場を構えました。それ以降、90 年にわたり府中において馬術部として活動を続けております。馬術部の成績としては、1964 年の関東学生馬術大会総合馬術競技において個人・団体優勝、1965 年の全日本学生馬術大会において総合馬術競技団体優勝、1966 年の東都学生自馬大会大障害飛越競技での幸早号の優勝（その活躍が”サラブレッドがなんだ！”との新聞投書と呼ばれ、文芸春秋や TV 等のマスコミに登場）などの成績を残しております。

近年の活躍も目覚ましく、2023 年は全日本学生馬術大会総合馬術競技において団体準優勝、2024 年は団体 3 位の成績を残しております。また、卒部生も大学、官庁、企業など各分野で活躍しており、偉大な遺伝学者であり東京農工大学名誉博士第一号の大野乾先生、元本学同窓会会長の藤森明彦氏、日本馬術連盟及び全日本学生馬術連盟理事長の橋本茂氏、競馬の世界では数々の名馬を鍛え上げた国枝栄調教師や小檜山悟元調教師などが活躍されております。また、私の所属する JRA にも多くの卒部生が勤務しており、馬産業においても一大勢力と言えます。

馬術部後援会は、その名の通り馬術部を支援する OB、OG 会になります。動物を常に管理しなければならない部活と学業の両立は大変なことですが、若い現役生も頑張っておりますので、後援会はそれを支える重要な使命を負っている組織です。現在約 300 人の方が所属して、馬術部のサポートに当たっております。以下に、馬術部の 1 年間の活動を通じまして、後援会の役割について御説明させていただきます。

#### 1 月：初乗り会

初乗り会は、馬術部の 1 年の始まりであり、現役部員と後援会員との年初めの交流会です。主に馬術施設で開催され、乗馬体験など交流を行います。2023 年までは、コロナウイルス感染症の影響で制限されていましたが、2024 年から制限なく多くの後援会員の皆様に来場していただいています。家族連れで参加される方もいますので、OB、OG の皆様からすると、自分が馬に乗っていた事を知ってもらう良い機会かと思えます。私にも 2 人息子がお

りますが、まだ一緒に参加したことはありませんので、私が馬に乗っていたことをあまり知りません。いつかは、自分のルーツである馬術部を見せてあげたいと思っています。



2024年 初乗り会

#### 2月から3月：追いコン

馬術部は4年生で卒部となりますが、その4年生の送別会である追いコンは2月から3月に実施しております。その大変さを思うと卒部される皆様に、4年間大変お疲れさまでしたという思いで、盛大に送り出したいと思っています。2024年の追いコンは、JRA調教師を引退された小檜山悟調教師の引退記念会と共催として、大國魂神社結婚式場にて実施いたしました。参加者は総勢60名を越えまして、素晴らしい記念会となりました。小檜山調教師は、調教師としての御活躍はもちろんのこと、日本の在来馬による祭事や、ゴリラなどの動物写真家・作家としての御活躍も著名であり、馬事文化の普及に貢献した功績を評価されて2023年にはJRA理事長特別表彰を、2024年には日本ウマ科学会功労賞を受賞されています。後援会および馬術部より、花束および記念品を贈呈させていただきました。小檜山先生のこれからの御活躍も大変期待しております。



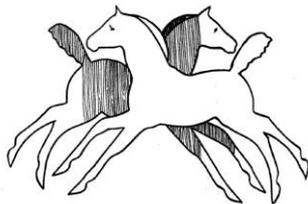
2024 年追いコン

春頃：後援会誌「わかこま」の発刊

馬術部後援会誌である「わかこま」の発刊は、後援会にとって重要な仕事です。2024 年までに 40 号を発刊しており、後援会員の皆様、および馬術部現役生に寄稿していただき、情報発信をしております。後援会員の皆様からは、社会人としてのアドバイス、現在の活動、現役時代の振り返り、故人を偲ぶことなど様々寄稿して頂いております。現役生からは、昨年の競技成績、所属馬匹情報、現役生としての思いを書いていただき、交流を深めております。

わかこま

第 40 号  
2024, 06



東京農工大学馬術部後援会誌 1993.04

後援会誌「わかこま」

#### 6～7月：関東学生馬術競技大会および報告会 後援会総会

全日本学生馬術競技大会への出場がかかる関東学生馬術競技大会は6月に開催されます。馬術部生にとっては最も重要な大会といっても過言ではありません。特に最後となる4年生にとっては、今までの馬術部活動のすべてをかけた一大決戦です。オリンピック競技で唯一男女の分けがない馬術競技ですが、関東学生馬術競技大会および全日本学生馬術大会も同様に男女分けはありません。また、内容もオリンピックと同じく、スタジアム内の障害を飛越する障害飛越競技、長方形の馬場内で演技の正確さや美しさを競う馬場馬術競技、上記2つと固定された野外障害の飛越を行う総合馬術競技があります。東京農工大馬術部は、パリオリンピックで初老ジャパンが団体銅メダルを獲得した総合馬術競技を得意としており、近年も好成績を収めております。競技終了後はその報告会と、馬術部後援会総会を合わせて実施しております。後援会総会は1年1回開催され、活動方針、会計報告、予算の承認をいただいております。報告会では、関東学生馬術競技大会の映像を見ながら現役生の感想や全日本学生馬術大会に向けての意気込みを聞く場になっています。2024年の関東学生馬術競技大会では、全日本学生馬術大会に5頭の出場権を獲得し、盛り上がった報告会となりました。



2024年関東学生馬術大会報告会

#### 10月～11月：全日本学生馬術大会と報告会

全日本学生馬術大会は10月から11月に開催されています。関東学生馬術競技大会と同じく3競技が行われており、関東学生馬術競技大会の結果に基づいて出場しております。馬術競技は、やはり資金力があり、経験者の多い私立大学が強い傾向にありますが、その中でも本学の活躍は、近年目立ってきております。2023年は、総合馬術競技団体準優勝という1965年の優勝以来の快挙となりました。一部の競技は残ってはおりますが、4年生にとっては最大で最後の目標と言える大会です。後援会としては、好成績はもちろん喜ばしいことですが、4年間馬に寄り添いここまで来たことを労ってあげたいと心から思います。



2024 年全日本学生馬術大会



2024 年全日本学生馬術大会報告会

以上が馬術部後援会活動になります。馬術部後援会事務局として、また獣医学科の非常勤講師として学生と接しておりますが、今の学生の皆様は学業も含めて本当に真面目に取り組んでいて、頭が下がる思いです。ここではあまり話せませんが、自分の時代と比べるとお恥ずかしい限りで、いろいろご迷惑をおかけしたことを反省しております。これだけ、多様な社会、娯楽、スマホ、インターネットがある世界において、動物と常に接する大変な部活に取り組んでくれる学生がいてくれることは大変ありがたいです。我々の馬産業においても人材確保の問題は大きく、全国の馬術部は欠かせない存在と言えます。個人的な意見ですが、東京農工大馬術部卒の肩書については自信をもってお勧めできる人材と思っておりますし、実際に各方面で御活躍されております。馬産業のみならず日本の将来を支えてくれる現役生のため、これからも後援会としてサポートしてまいります。大学の皆様方につきましても、是非ともよろしく願いいたします。